



# 福島イノベーション・コースト構想 について

2020年3月

福島県 福島イノベーション・コースト構想推進室

## 福島イノベーション・ コースト構想

浜通り地域等の失われた  
産業を回復するため、  
新たな産業基盤の構築を  
目指す国家プロジェクト

15市町村

川俣町、田村市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、  
大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村、いわき市

自立的・持続的な産業発展の実現と  
その効果の県全体への波及



2011年3月11日 . . .



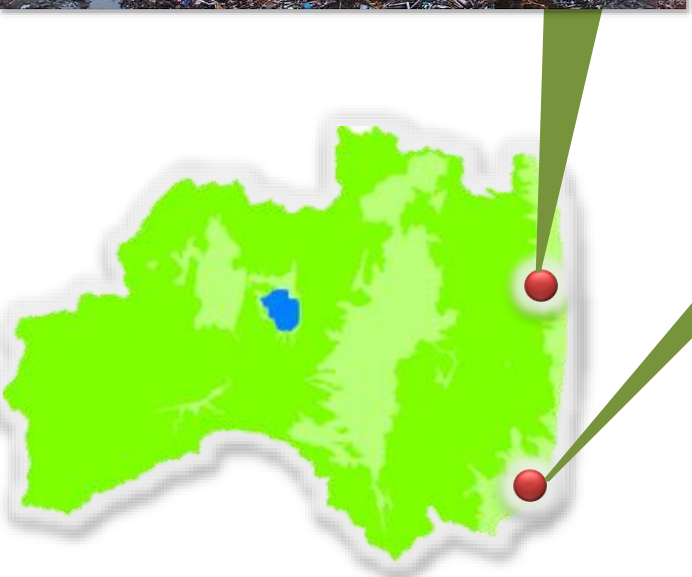
浪江町請戸



いわき市江名港

## [被害概要]

- 死者：  
4,109人  
(2019年12月5日現在)
- 家屋被害：  
全半壊98,218棟  
(2019年12月5日現在)
- 公共施設被害：  
約5,994億円  
(2012年3月23日現在)





## 道路復旧



震災直後

速やかな復旧！



復旧後

## 海岸堤防



震災直後

より安心・安全に！



復旧作業中

## 災害復旧工事



災害復旧工事の98%で着工、**96%が完了** (2019年9月末現在)



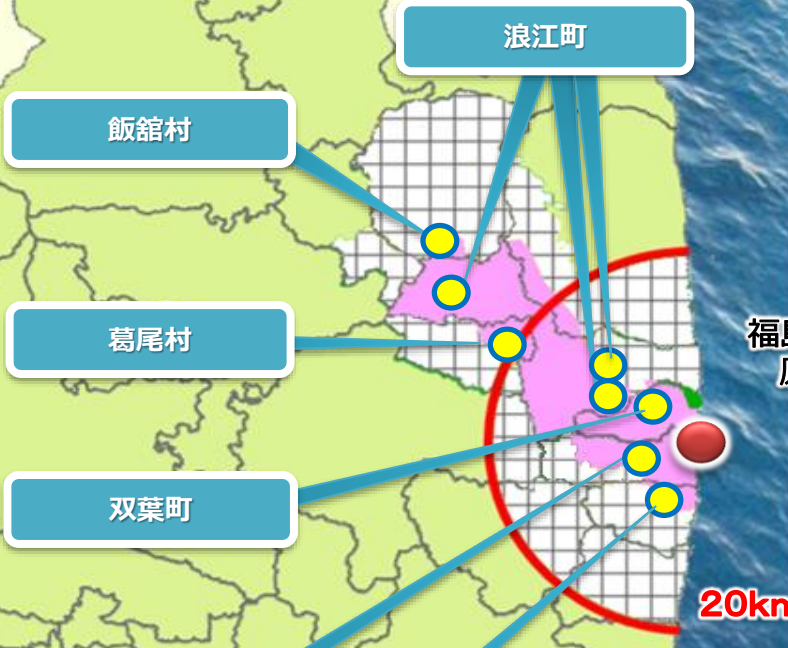
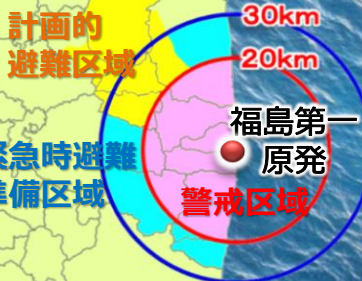
## 県土に占める避難指示区域の割合 (県の面積13,783km<sup>2</sup>)

○平成23年4月23日時点



県土の約12.5%

※避難指示等区域面積には、旧緊急時避難準備区域を含む。



避難指示区域  
面積 約339km<sup>2</sup>

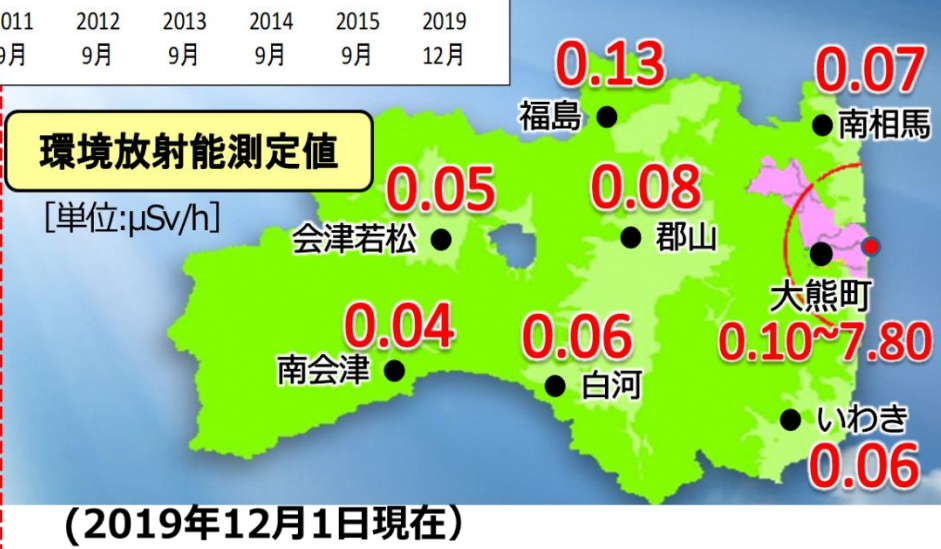
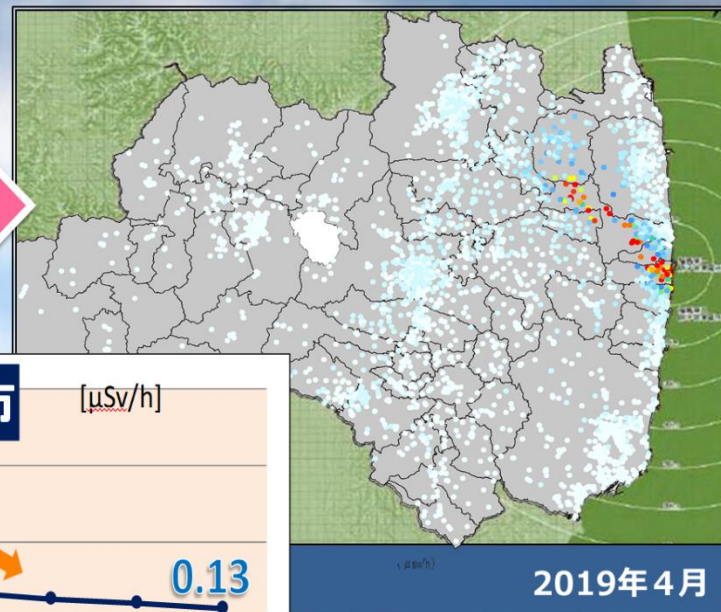
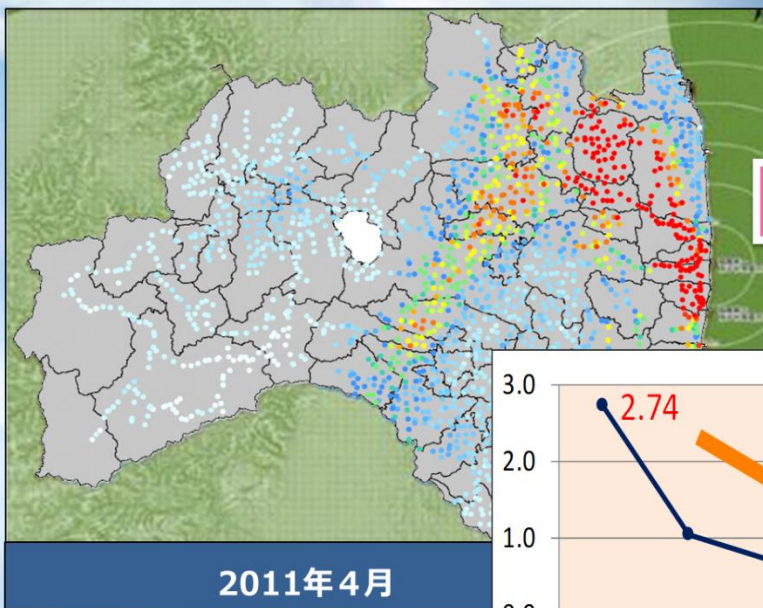
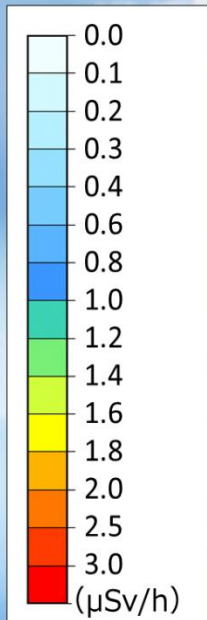
県土の約2.5%に減少

	帰還困難区域	約337km <sup>2</sup>
	避難指示解除準備区域	約2km <sup>2</sup>
	特定復興再生拠点区域	約28km <sup>2</sup>
	避難指示が解除された区域	約811km <sup>2</sup>



# 戻りつつある環境

# ～福島県内の空間放射線量～

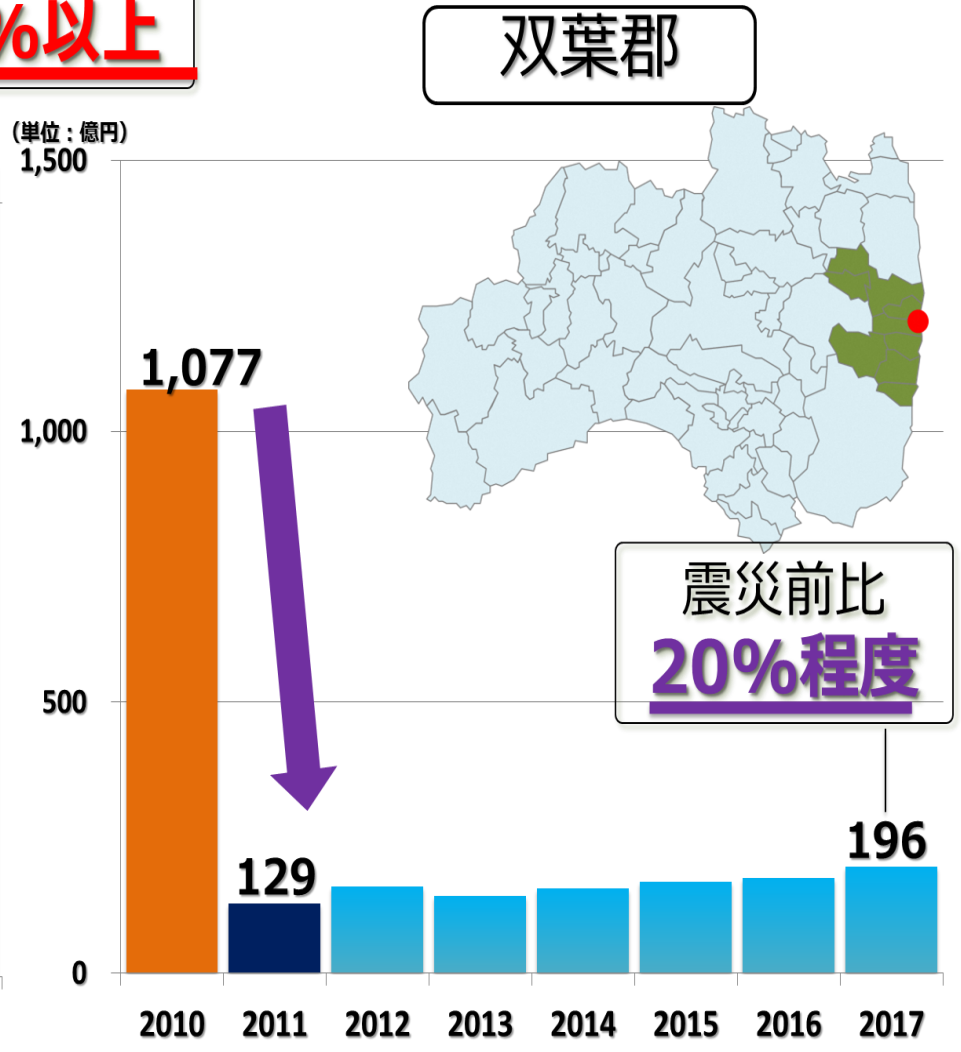
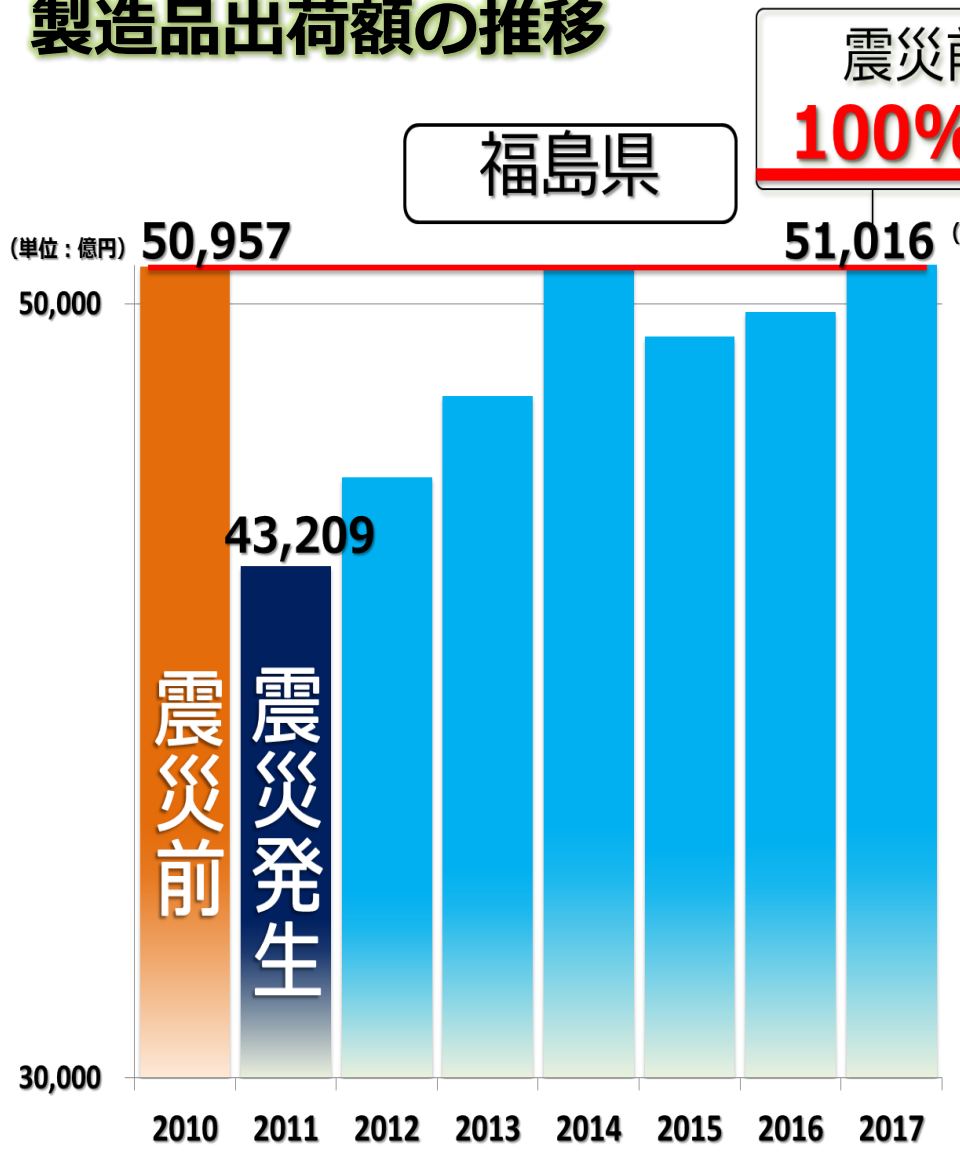


(2019年12月1日現在)

Data : Japan National Tourism Organization



## 製造品出荷額の推移



浜通り地域等は、震災と原子力災害により働く場を喪失。  
地域の復興を実現するためには、  
前提となる福島第一原発の事故収束を進めながら、  
**「あらゆるチャレンジが可能な地域」**として  
**新たな産業の創出**が求められている。



浜通り地域等の失われた産業を回復するため、  
新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト



## 福島イノベーション・コースト構想



# 福島イノベーション・コースト構想の経緯

## 福島イノベーション・コースト構想の経緯

## (参考) 避難指示区域の解除

※**帰還困難区域を除く**

2014  
(平成26年)

2014年1月 浜通り地域の新たな産業基盤の構築や広域的視点でのまちづくりを目指し、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会を設置

※座長：原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）

構成員：副知事や地元を含む産学官の有識者、開催：2014年1月以降7回

**2014年6月 福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会 報告書取りまとめ**

2014年11月 個別検討会の設置

・「ロボット研究・実証拠点整備等に関する検討会」、「国際産学連携拠点に関する

検討会」、「スマート・エコパークに関する検討会」の設置。各5回開催し、

2015年3月に中間とりまとめ

2015  
(平成27年)

2014年12月 イノベーション・コースト構想推進会議の設置

・原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）が座長を務め、県知事、地元

市町村長等が参加。2017年2月まで8回開催

2016  
(平成28年)

**2017年5月 福島復興再生特別措置法改正法の成立**

・**福島イノベーション・コースト構想を法的に位置付け**

2017年7月 福島イノベーション・コースト構想推進機構 設立

2017年7月 福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議の設置

・2018年4月には第2回を開催

2017  
(平成29年)

2017年11月 福島イノベーション・コースト構想推進分科会の設置

・「福島イノベーション・コースト構想推進分科会」を、「イノベーション・コースト構想推進会議」の後継の会議体として立ち上げ、第1回を開催

2018  
(平成30年)

2018年4月 福島イノベーション・コースト構想推進機構 福島市に事務所を設置し、事業を本格展開

**2018年4月 福島復興再生特別措置法に基づく重点推進計画の認定**

・福島イノベーション・コースト構想実現のための基本的な方向性と取組の内容を盛り込んだ「重点推進計画」を内閣総理大臣が認定

2019  
(令和元年)

2018年10月 福島イノベーション・コースト構想推進機構 役員体制を強化、理事長に斎藤IHI会長が就任

2019年1月 福島イノベーション・コースト構想推進機構 公益財団法人へ移行

2019年4月 福島イノベーション・コースト構想推進機構 福島ロボットテストフィールド（RTF）の指定管理を受け、南相馬市（RTF内）に事務所を設置。

2014年4月 田村市

2014年10月 川内村（旧避難指示解除準備区域）

2015年9月 楢葉町

2016年6月 葛尾村、川内村

2016年7月 南相馬市

2017年3月 飯舘村、川俣町、浪江町

2017年4月 富岡町

2019年4月 大熊町

## ＜復興庁・経済産業省・福島県＞

### 基本的考え方

福島イノベーション・コースト構想の更なる具体化を軸に、地元企業との連携など地域経済への波及やそれらを支える人材育成を含め、**中長期的で広域的な観点から、地域が目指す自立的・持続的な産業発展の姿**と、その実現に向け、国、県、市町村、イノベ機構、関係機関が進める**復興・創生期間後も見据えた取組の方向性を整理する**。

### 基本目標

復興需要が一巡した後も、**全国と同様に域内GDPが成長し、自立的・持続的な産業発展が実現することを目指す**。

### これまでの経緯

平成26年6月 「福島イノベーション・コースト構想研究会」報告書とりまとめ  
 平成29年5月 「福島復興再生特別措置法」が改正され、本構想が法定化  
 平成29年7月 第1回「福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議」開催  
 平成30年4月 「重点推進計画」の内閣総理大臣認定  
 令和元年12月 「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」策定  
 令和2年〇月 「重点推進計画」改定（調整中）

### 目標年度

**令和12年頃**（5年間などステージに応じた期間を設定し、早期の実現を目指す）

### 現状と課題

- 研究開発施設の整備や実証研究の進展を産業集積につなげる
- 更なる企業立地
- 本構想を担う人材の確保・定着
- 教育・人材育成の効果発揮

### 目指していく姿



## ＜具体的な取組＞

### 「あらゆるチャレンジが可能な地域」

- **地域全体**を新たなチャレンジに向けた**研究・実証フィールド**として活用
- 実証研究を促進する**規制緩和**、新たな活力の呼び込みに資する**税制優遇措置**等
- **実用化開発**に対する支援、**企業立地**支援、創業支援、伴走支援の強化
- 企業の**多様な資金需要**への対応や**ハンズオン支援**
- 風力産業の集積、蓄電池産業の重要拠点化など
- 15市町村が連携した情報発信や**交流人口拡大**の取組
- ふくしま復興再生道路の着実な整備、研究開発拠点へのアクセス向上、小名浜港・相馬港の利便性向上 等

### 「地域の企業が主役」

- 最先端分野だけではなく、地域に根差した産業や宿泊、飲食業などの分野への幅広い地元企業の参画支援
- ハイテクプラザによる地元企業の**技術力向上**
- 相双機構やイノベ機構による地元企業の**経営力強化**支援
- 他業種・他分野への参入支援
- 相双機構やイノベ機構による地元企業と進出企業等の**マッチング支援**の強化
- 県内他地域の企業が、浜通り地域等の企業と連携して取り組む、**研究開発・実証プロジェクト**の支援 等

### 「構想を支える人材育成」

- 産業界と連携した特色ある**教育プログラム**の実施
- 地域に就職した**若者等のコミュニティ構築**
- 首都圏等を始めた県外の若者のU I ターンの促進
- 構想への参画を促すための**国内外への情報発信**の強化
- 福島ロボットテストフィールド等の拠点を活用した共同研究の促進
- **復興知事業**による大学間の連携強化や広域的・継続的な研究活動の誘導
- 有識者会議における議論を踏まえた**国際教育研究拠点**の具体化の検討 等



## 廃炉

- 福島第一原発の廃炉を加速するための国際的な廃炉研究開発・人材育成
- モックアップ試験施設等を活用した遠隔操作機器・装置の開発、実証試験、事故で発生した放射性廃棄物や燃料デブリの性状等を把握するための分析・研究

## ロボット

- 陸・海・空のフィールドロボットの研究開発や操縦訓練等を行う「福島ロボットテストフィールド（世界に類をみない一大研究開発拠点）」の整備とその周囲のロボット関連企業の集積
- 「World Robot Summit 2020」の一部競技の開催

## エネルギー・環境・リサイクル

- 太陽光発電・風力発電などの再生可能エネルギーの導入拡大と「スマートコミュニティ」の構築
- 世界最大級（1万kW級）の再生可能エネルギー由来の水素製造技術の実証
- 石炭灰の再生利用やリチウムイオンバッテリーの再利用によるリサイクルの推進

## 農林水産

- ICTなど先端技術を活用した施設園芸栽培の推進
- 担い手不足に対応した土地利用型の大規模生産プロジェクト

## 医療関連

- 研究開発から事業化までの一貫した支援と参入の促進

## 航空宇宙

- 産業の裾野の拡大・産業クラスターの形成
- 空飛ぶクルマ関連産業の集積

## 研究拠点・人材育成・参入促進の取組

日本原子力研究開発機構（JAEA）が、福島第一原子力発電所の廃炉に伴う、燃料デブリの取出しや、発生する放射性廃棄物の処理処分等に必要な技術開発を行う研究拠点を整備。

また、福島イノベーション・コースト推進機構が、関係機関と連携のもと、地元企業の参入を促進。

### 楢葉遠隔技術開発センター [楢葉町]

平成28年4月～本格運用開始

- 廃炉作業に必要な遠隔操作機器・装置の開発・実証を実施
- 作業者の訓練を行うためのVR（バーチャルリアリティシステム）を備えた研究管理棟と原子炉の廃止措置技術の実証試験や遠隔操作機器の開発実証試験を行うための試験棟から構成



楢葉遠隔技術開発センター



モックアップ階段



バーチャルリアリティシステム

### ■ 廃炉創造ロボコン

廃炉を担う人材の育成を目的として、全国の高等専門学校生を対象としてロボット技術の大会を実施



福島高専のロボット

### 廃炉国際共同研究センター [富岡町]

通称：CLADS 平成29年4月～本格運用開始

- 廃炉に係る研究開発・人材育成等を実施。



国際共同研究棟



富岡町学びの森にて

### 廃炉関連業務トライアルマッチング会開催

- 廃炉産業に県内企業が参入しやすい受注体制を調査するため、12月2日に第1回目となるトライアルマッチング会を富岡町の学びの森で開催しました。当日は、参入を希望する企業15社が参加し、個別商談を行いました。



マッチング会の様子



- 福島第一原発の廃炉作業が長期にわたって続き、福島第二原発においても今後廃炉作業が進められていくこととなる中、中長期的な観点から、**廃炉に携わる企業が地元を集積することが重要。**
- 廃炉事業への更なる地元企業の参画を進め、地元における廃炉関連産業の集積を図るべく、**元請側と地元企業との協働促進**及び**地元企業の参入意欲向上**を目的に**新たな支援パッケージを新設する。**

## 補助事業で地元企業活用を評価 【資源エネルギー庁】

- 2020年度から、研究開発事業の評価項目を追加(※)し、**地元企業と協働した取組を高く評価。**
- ※ “**福島県浜通り地域等(注)の地元企業を活用するなど当該地域等の産業振興に寄与しているか。**”

(注) 加点数：加算合計数の約1割。  
対象地域：いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村

## コーディネーターの配置 【福島イノベ機構】

- **廃炉事業の現場におけるニーズと地元の技術シーズの双方を把握している人材（コーディネーター）を2020年度から配置。**
- **元請企業への地元企業情報の提供や、地元企業への廃炉関連情報の提供、両者の引き合わせなど、マッチングサポートを実施。**

## 廃炉産業入門書の作成 【福島相双機構】

- **廃炉産業に新たに参入することを検討している製造業の事業者をターゲットにパンフレットを作成**
- **廃炉関連の資機材・部品に求められる品質や、サポート窓口等、参入の一助となる情報を記載。**



元請側の地元企業との  
協働意欲向上

効果的なビジネスマッチング

地元側の廃炉参入意欲向上

廃炉関連産業への地元企業の参入を促進

## 福島ロボットテストフィールド（南相馬市、浪江町）

物流・インフラ点検、大規模災害などに活用が期待されるロボット・ドローンの研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大研究開発拠点を、南相馬市及び浪江町に整備。（合計約50ha）平成30年度から順次施設が開所し、2020年春には全施設開所予定。

### 無人航空機エリア



滑走路・滑走路付属格納庫

### 開発基盤エリア



開発基盤エリア



福島ロボットテストフィールド（南相馬市）

### 水中・水上ロボットエリア



屋内水槽試験棟

### インフラ点検・災害対応エリア



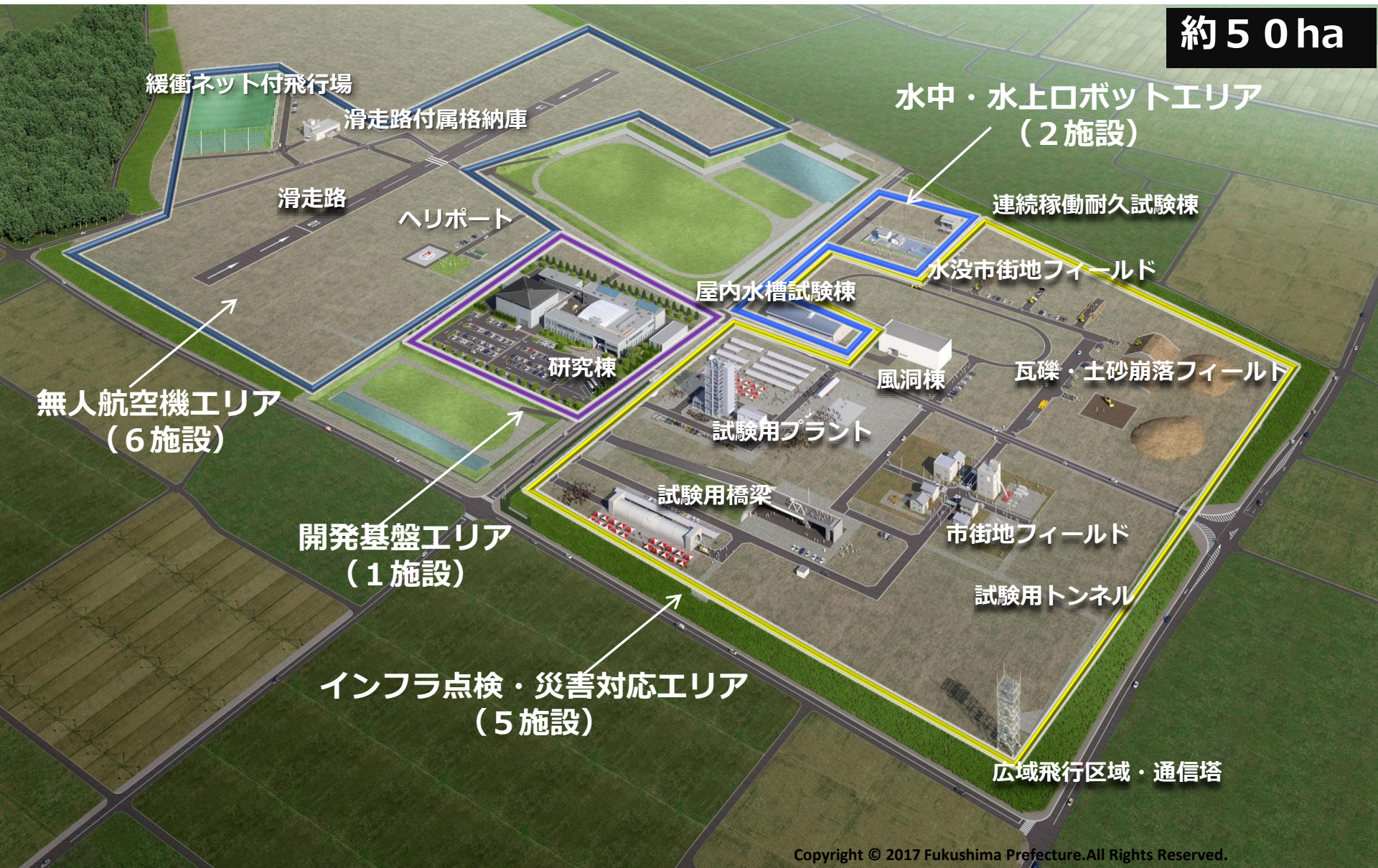
試験用トンネル

## ワールドロボットサミット

- ・2020年に、高度なロボット技術を国内外から集結させて各課題の限界に挑戦する、ロボット国際大会を愛知県と福島県で開催
- ・インフラ・災害対応分野の一部の競技について、福島ロボットテストフィールドで実施



約50ha



Copyright © 2017 Fukushima Prefecture. All Rights Reserved.

※ 上記のほか、浪江町に滑走路及び滑走路付属格納庫を整備



## (株)eロボティクス福島（南相馬市） (株)東日本計算センター（いわき市）

### 高高度隊列飛行による三次元メソスケール空間情報収集ドローン型ロボットの開発

単機で国内最高級の対地高度2000m超えに成功。3段3列奥行きもの27機隊列飛行での高層気象観測の実現に向け、実証開発中。

気象情報の取得による異常気象や竜巻、局地的集中豪雨、台風などの予測精度向上、電磁波情報の取得による携帯電話等の電波情報への応用、放射線・PM2.5測定、火山噴火や化学工場の爆発事故、テロなどの有害ガス、粉塵など拡散挙動分布情報の取得などの技術への活用を期待。



## イームズロボティクス(株)（福島市） (有)ワインディング福島（南相馬市）

### ドローンによる害獣対策技術の開発

東日本大震災及び福島第一原発事故による避難地域において、野生のイノシシが増加している状況であり、避難者の帰還のためにドローンを用いた害獣対策の開発を実施。

センサーによるイノシシの感知に対し、ドローンが自動発信し画像認証によるイノシシを追尾、自動で発信場所まで戻る技術を実証。



## 再生可能エネルギーの導入拡大

3ルート(阿武隈北部・阿武隈南部・双葉北部)、総延長約80kmの共用送電線整備。

風力発電等600MW以上の再生可能エネルギーの導入を目指す。

万葉の里風力発電所  
(株)南相馬サステナジー



国土地理院地図

## 水素社会のモデル構築

浪江町において、1万kW級となる世界最大級の水素製造装置により、再生可能エネルギーから水素を製造する実証を実施。

2018年7月から着工し、2020年に運転を開始予定。

<福島水素エネルギー研究フィールド>



出典：東芝エネルギーシステムズ(株)

## スマートコミュニティの構築

浜通り地域等の5市町村が、再生可能エネルギーや水素エネルギー等を地域で効果的に利用する「スマートコミュニティ」の構築。

新地町、楡葉町、相馬市、浪江町、葛尾村で展開。

<相馬市 (2018年3月構築完了)>

事業者：(株)IHI、そうまIグリッド合同会社



出典：  
(株)IHI

## 関連事業

<CENTER for Wind Energy >

地域で風力発電産業への参入と製造拠点化(一大風力産業クラスター)の実現を目指す。

<いわきバッテリーバレー構想>

いわき市と周辺地域が蓄電池関連産業の重要拠点として認知・集積され、再生可能エネルギーの地産地消と分散型エネルギー社会の実現を目指す。

## フォーアールエナジー株式会社（浪江町）

### 車載用リチウムイオンバッテリーの 二次利用技術の開発・製造

日産自動車が出産地域復興実用化開発等促進事業補助金を活用して開発したシステムを事業化。

浪江町において、自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金を活用し工場を建設し、5名の地元での雇用を確保。



<リーフのバッテリーのリサイクルの仕組み>

## 福島エコクリート株式会社（南相馬市）

### 産業副産物のフライアッシュ（石炭灰）を用いた 環境に優しい土木資材の製造

南相馬市において、火力発電所から発生するフライアッシュ（石炭灰）を主原料とし、エコクリート砕石の製造・販売を行う事業を新たに立ち上げ、地域雇用の創出と復興資材の製造を行っている。（この工場の立ち上げを機に、ふるさとへ帰還を果たした方もいる。）

製品名「ORクリート」は、地元の小高産業技術高等学校の生徒が命名。









先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実践

農林水産業の復興・再生



<p><b>1 H31. 2月 開所</b></p>  <p>水産資源研究所 (相馬市・新地町)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種苗生産と資源管理などの研究を一体的に実施</li> <li>・相馬共同火力発電(株)新地発電所の温海水を利用(自然海水+7℃)</li> </ul>	<p><b>2 H28. 3月 開所</b></p>  <p>浜地域農業再生研究センター (南相馬市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験ほ場を持たず、27課題・42地点で営農再開支援のための現地実証研究を実施</li> </ul>	<p><b>3 R元 供用予定</b></p>  <p>木材加工流通施設 (浪江町)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集材材製造を行う公設民営工場</li> <li>・年間出荷額15億円(想定)の生産規模(想定)</li> </ul>	<p><b>4 R元 7月開所予定</b></p>  <p>水産海洋研究センター (いわき市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境中放射性物質の移行解明</li> <li>・沖合漁業に関する研究</li> <li>・海洋環境・海況予測に関する研究</li> </ul>
---	---	--	--

## 水稻や畑作物の大規模生産の実践

先端技術開発・実証や農業者の法人化、民間企業等の参入促進によるスマート農業等の実践

<p><b>H30. 12月発売</b></p>  <p>ロボットトラクタ 作業効率が1.4倍</p>	<p><b>タマネギ機械化体系</b></p>  <p>安定生産に向けたモデル構築</p>	<p><b>企業参入、農業者の法人化支援</b></p>  <p>担い手の確保に向けた支援</p>	<p><b>マルヤス産業(株)</b> (いわき市他)</p> <p>食品、機械メーカー等と連携した野菜大規模生産の実践</p>	<p><b>(株)紅梅夢ファーム</b> (南相馬市)</p> <p>ロボットトラクタ導入によるスマート農業の実践</p>
<p><b>H30~R2 開発</b></p>  <p>フロッコリー収穫ロボ 人力比較1/8に削減</p>	<p><b>ドローンの活用</b></p>  <p>遠隔操作による生育診断が可能</p>	<p><b>技術体験フェア</b></p>  <p>先端技術等を発信</p>	<p><b>(有)高ライスセンター</b> (南相馬市)</p> <p>100ha経営を目指す水田メガファームの実践</p>	<p><b>飯豊ファーム(同)</b> (相馬市)</p> <p>法人化により組織を強化して大豆等</p>
			<p><b>飯崎生産組合</b> (南相馬市)</p> <p>農地の大区画化(1ha規模)による面的な営農再開</p>	<p><b>(株)しるはとファーム</b> (樺葉町)</p> <p>農業法人の参入による大規模なサツマイモ栽培</p>

先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実践

農林水産業の復興・再生

## 新たな花き産地形成

復興をリードする花きの導入



カンパニュラの電照栽培



花きの周年栽培  
(浪江町、新地町 他)

先端技術を現地実証により、トルコギキョウ（4～8月）とカンパニュラ（10～2月）を組み合わせた周年生産体系を新たに構築



かつらお胡蝶蘭(同)  
(葛尾村)

地元の農業者らによる胡蝶蘭栽培経営体の創出



アンスリウム  
(川俣町)

近畿大学と連携し、アンスリウム栽培を実施

## 畜産産地の復活

ICTを活用した大規模経営体の育成



繁殖牛一元管理システム  
(飯館村)

ICTを活用した繁殖牛大規模経営体を支援する管理システムを開発



大規模経営

開発した技術などを活用し、省力化・効率化による畜産業の復興



R元～R2 開発

AI

肥育改善AIロボ

帯広畜産大学等と連携し、肥育技術を改善するシステムを開発

## 新たな水産業の実現

高付加価値化、先端技術の実用化による  
ふくしま型漁業の実現



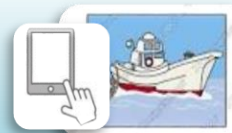
高鮮度保持技術  
シャーベットアイス

生食可能期間が+48時間  
延長



販路の回復

大手量販店への常設棚の  
設置 (H30.6月～)



需要に基づ  
く漁獲



漁獲量の  
事前提供



ICTを活用した操業支援技術を開発

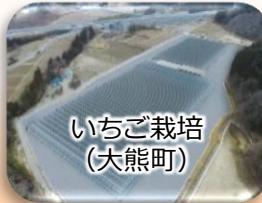
## 園芸施設の導入

温度、湿度、CO<sub>2</sub>等の省力自動管理が図れる  
環境制御型施設の導入



(株)ひばり菜園  
(南相馬市)

施設面積2.5ha  
トマト、小ネギ 他を栽培



いちご栽培  
(大熊町)

高設ベット養液栽培2.3ha  
ふくはる香 他を栽培予定

## 林業生産基盤の整備等による林業・木材産業の振興

航空レーザ計測を活用した森林情報等の把握と路網整備や林業ロボットの導入による  
スマート林業等の実践



航空レーザ計測  
(南相馬市 他)

高精度の地形・森林情報を  
取得し、整備計画を策定



林業専用道

左記計画に基づく  
路網整備



林業ロボット  
(いわき市森林組合 他)

生産性向上、安定供給のため  
林業ロボットの導入



整備された  
森林の増加

県産材の安定  
供給を目指す



## 大規模生産プロジェクトの事例

### 企業間の連携 紅梅夢ファーム/舞台ファーム

「紅梅夢ファーム」は、担い手等の帰還が進まない南相馬市小高区において、地域全体の営農を支える役割を担いながら、宮城県の農業法人「舞台ファーム」と連携して、「天のつぶ」の生産を開始、年々生産規模を拡大している。

「天のつぶ」は、アイリスオーヤマグループが全量を買取り、パックライスとして販売されている。



天のつぶ パックライス

## 施設園芸プロジェクトの事例

### グループによる生産・加工・販売・観光の一体的な取組 JRとまとランドいわきファーム

平成27年度に耐風性、耐雪性に優れた「低コスト耐候性ハウス」や、各種環境因子を高度に制御できる「環境制御装置」等を導入。年間600tのトマトの収穫を目標に掲げて取り組む。

隣接するトマトのテーマパーク「ワンダーファーム」において、レストラン食材や加工品として活用している。

また、福島イノベーション・コースト構想の情報発信拠点として、交流人口の拡大にも取り組んでいる。





## 医療関連

## 【研究開発から事業化まで一貫した支援】

- 医療・福祉機器等について、ふくしま医療機器開発支援センターが事業化及び製品の販路開拓を支援。
  - ・ 製品の安全性評価試験
  - ・ 企業訪問による課題解決の支援 など

## 【参入の促進】

- 浜通り地域等でセミナー開催し、企業等とのマッチング。
- 協議会等を通じた支援制度や技術動向等の情報提供。
- 医薬品分野について、創薬に有効な技術を開発しているTRセンター、福島県及び浜通り地域等の企業等との間で定期的に意見交換の機会を設け、関連産業の集積に資する取組を検討。



ふくしま医療機器開発支援センター

## 航空宇宙

## 【産業の裾野の拡大・産業クラスターの形成】

- 航空宇宙産業への参入に必要な国際認証取得、設備投資、技術力向上への支援。
- 宇宙航空研究開発機構（JAXA）と地元企業との技術マッチング。
- 実用化開発や企業立地の促進等により、ロボットや医療機器分野等、異分野からの参入を促進。

## 【空飛ぶクルマの関連産業の集積】

- 「空の移動革命に向けたロードマップ」の試験飛行の拠点として位置付けられた福島ロボットテストフィールドを活用し、実証や関係企業を誘致。



空飛ぶクルマの一例（経済産業省HPより）

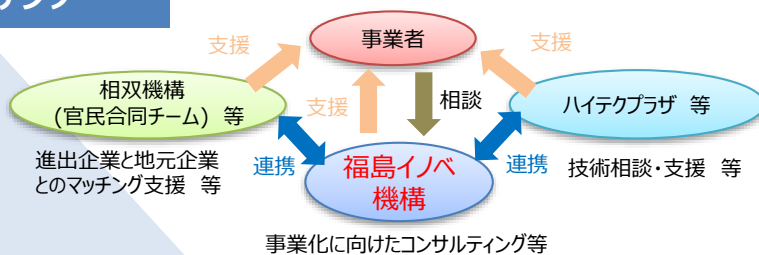
- 福島復興再生特別措置法に基づく「重点推進計画」（2018年4月25日 内閣総理大臣認定）において、福島イノベーション・コースト構想推進機構を本構想推進の主要な実施主体として位置付け、国家プロジェクトである本構想の具体化を推進。  
※2017年7月25日に機構設立、2018年4月より体制強化し事業を本格展開。(2019年12月現在：76名)
- 以下の5本柱に、2019年度は県からの受託・補助事業（約17億円）を中心にソフト面の取組を展開。

## 産業集積・ビジネスマッチング

- 浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新ビジネス立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援



ふくしまみらいビジネス交流会



## 交流人口の拡大

- 浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 交流人口拡大に向けた交通環境の改善



現地見学ツアー

## 拠点施設の管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営受託
- 福島県が整備予定の情報発信拠点の運営受託を目指して活動
- 拠点の利活用について県内外にPR



福島ロボットテストフィールド

## 教育・人材育成

- 高等学校等での産業界および研究機関等と連携した教育の実施支援
- 市町村と連携した大学等の教育・研究活動支援



高等学校等におけるイノベーション人材育成

## 情報発信

- 県民等へのイノベ構想の分かりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けたイノベ構想の魅力を発信



イノベ見える化セミナー



# 構想実現に向けた取組 ①産業集積・ビジネスマッチング

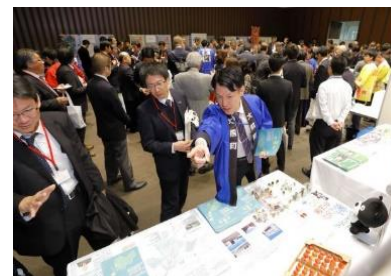
- 県外企業等の浜通り地域等への産業集積を目的として、浜通り地域等の産業ポテンシャルや各種優遇制度等を紹介するセミナー、産業団地を巡る現地見学（企業立地）ツアーを実施。
- 新たなビジネスパートナー等の獲得を目的として、新規立地企業や浜通り地域等の企業等の参加によるビジネスマッチング（交流会）を開催し、浜通り地域等への企業立地を促進。
- 先端技術や新たな農林水産業の情報等を得られる体験型展示会を開催し、浜通り地域等での農林水産業の成長産業化を推進。

## <企業誘致関連>

- 企業立地セミナー（2019年度 3回開催予定）  
10/31 東京, 11/26 名古屋, 2/6 大阪
- 現地見学ツアー（2019年度 2回開催）  
第1回 5/21・22, 第2回 1/14・15
- ふくしまみらいビジネス交流会  
（2019年度 2回開催予定）  
11/19 いわき市,  
1/28 南相馬市（味のテストフィールド）



企業立地セミナー（東京）の様子【参加：約150名】



企業立地セミナー（名古屋）の様子【参加：約150名】



企業立地セミナー（大阪）チラシ

## <農林水産業関連>

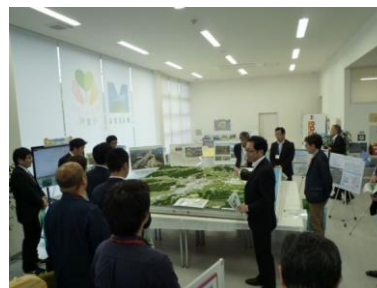
- 先端水産業技術体験フェア ○スマート農業・畜産技術体験フェア



先端水産業技術体験フェアの様子  
8/4 相馬市【参加：約200名】



スマート農業・畜産技術体験フェアの様子  
11/29 飯舘村【参加：約320名】



現地見学ツアーの様子





## <事業化支援>

- これまで2016~2018年度の「地域復興実用化開発等促進事業費補助金」に採択された約100社※を対象に訪問等を行い、個々の事業者が抱えている課題解決のための支援を実施中。※2019年5月末現在

- 市場調査、技術面での課題解決や販路開拓に向けたマッチング、販売戦略の策定、資金調達に向けたアドバイスなど、課題に応じて、具体的な支援を展開。

事業化を目指す企業に対する →  
コンサルティング支援の様子  
(2019/1/17)



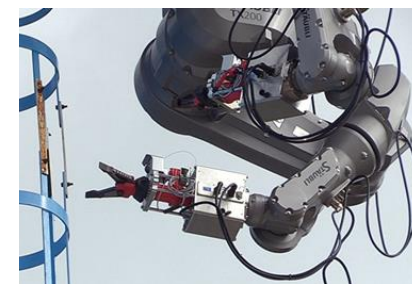
## <廃炉関連産業のマッチング可能性調査> ※2019年度開始

- ニーズ側とシーズ側をつなぐ全体的なマッチングスキームを構築し、地元企業が廃炉関連産業に参入するための事業化可能性調査を行う。

- ① 効果的なマッチング方法の検討
- ② 地元企業の受注につながる元請企業からのニーズの出し方の検討
- ③ 各業界団体などを中心とした受注体制の検討及び地元企業の技術キャパシティ等の把握
- ④ マッチングを支援するコーディネーターの業務内容、配置、人選等の検討
- ⑤ 元請企業と地元企業をつなぐマッチングスキームの検討

### (参考) 排気筒解体工事の実証試験

- 株式会社エイブル (大熊町)  
※現在は広野事業所に機能移転中
- 遠隔操作に関する高い技術力をもとに、福島第一1・2号機排気筒の解体工事を模擬した実証試験を開始。



実物大模型による解体試験の様子 (2018/11/20)

- 関係機関・企業と緊密に連携し、地元企業の参画、域外企業の誘致等を効果・効率的に進めていく。
  - ✓ 2018年10月3日、福島相双復興推進機構（相双機構）と連携協定を締結。
  - ✓ 2019年5月24日、東邦銀行と連携協定を締結。

## <相双機構との連携協定締結式 (2018/10/3) >



## <ビジネス交流会>

- ・イノベ機構と相双機構が連携したイベント（両機構が主催）。
- ・新規立地や研究開発等を計画・実施している企業が講演、ブースを設置し、来場した地元企業との商談等を実施。

(第1回) 2019/11/19  
いわき産業創造館  
講演：4企業  
16企業20社商談実施

(第2回) 2020/1/28  
福島ロボットテストフィールド  
22ブース出展予定  
※RTF入居企業10社、  
実用化補助金採択企業14社

福島イノベーション・コスト構想 開催日時 1/28 (10:30-15:00) 1月17日(金) 福島県いわき市 いわき産業創造館 電話 0246-814513

入場無料 3月開催 福島県産品 特別優待 福島県産品 特別優待

お申し込み・お申し込みの詳しい情報は下記URLから <http://fukushima-biz.jp>

県内各地域で新たなビジネス機会の創出を目指して

福島ロボットテストフィールド 2020年 全開オープン!

024-991-4741

## <東邦銀行との連携協定締結式 (2019/5/24) >



商談の様子



## 株式会社 スペースエンターテインメントラボラトリー

本社/東京都大田区 県内拠点 南相馬市

ドローンや高高度気球から人工衛星まで航空宇宙技術をコアとしたテクノロジーカンパニーです。湖や河川、海などの水上から発着ができる固定翼ドローンで長い航続時間・航続距離が特徴の飛行艇型ドローンの開発を行っています。



## 富士コンピュータ 株式会社

本社/兵庫県加古川市 県内拠点 南相馬市

個別ユーザーの認知的特性診断に基づく対話を通じた介護支援コミュニケーションロボットの研究開発を行っています。介護用に特化したAIエンジンを搭載し、認知症予防や運動機能向上を促進します。



## フジ・インバック 株式会社

本社/神奈川県横浜市 県内拠点 浪江町

長距離型無人航空機の設計・製作を行っている企業です。すべての設計・製作を自社にて行っており、オリジナルの装置やコンポーネントも数多く提供しております。



## 株式会社 ロボデックス

本社/神奈川県横浜市 県内拠点 福島ロボットテストフィールド

燃料電池等を利用した特殊ドローンの研究開発を行う企業です。燃料電池等を搭載した長時間利用可能なドローンを物流や災害時に利用したい企業様や自治体様へ運用までのサービスを御提供します。



## 東北大学 未来科学技術共同研究センター

所在地/宮城県仙台市 県内拠点 福島ロボットテストフィールド

次世代モビリティの社会実装による地域社会課題解決と産学官連携を推進しています。その活動内容と本学の有する次世代モビリティ関連技術(自動運転、リチウム電池、非接触給電等)を紹介いたします。



## ロボコム・アンド・エフエイコム 株式会社

本社/東京都港区 県内拠点 南相馬市

2018年8月に設立したロボットシステム開発会社で、主にロボットパッケージの製造・販売や大型精密部品加工などを行っています。南相馬市の復興工業団地進出第1号企業として、スマートファクトリー向けのロボットシステム機器などの生産工場を建設し、2020年11月の操業開始を目指しております。



### ● ふくしまみらいビジネス交流会 in福島ロボットテストフィールド (2019.2.26)

### ● ふくしまみらいビジネス交流会 inいわき (2019.11.19)

#### 株式会社金子製作所 工場(いわき市)/本社(埼玉県さいたま市)

医療用機器部品の切削加工や、細かい部品の製造について、コスト・品質で優れる地元企業様を探しております。ともに品質にこだわり、安全・安心・信頼に応えられるものづくりに取り組んでいただきたいと思います。



#### 矢野口自工株式会社 工場(檜葉町)/本社(東京都大田区)

浜通りを中心に、サクシオン・高圧ホース等の部材調達、鋼板曲げ加工、座席シート張り加工、車両のラッピング等にご協力いただける地元企業様を探しております。また大型車検整備、車両・金属塗装、各種プラントのメンテナンス清掃、焼却炉ダスト・粉粒体吸引回収、高圧水による管路清掃などを承りたいと考えております。



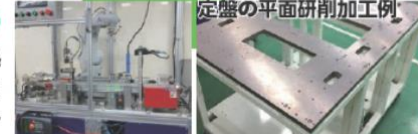
#### 株式会社ニツチュー いわき市に進出予定/本社(東京都台東区)

新工場での機械製造にあたり、設計(機械設計、電気設計)、機械製図及び組立、機械修理の経験豊富なパートナー企業のほか、製造品を全国に配送するための運送会社などを探しております。また、福島県内の地域の企業様を中心に、プラストの請負加工なども承りたいと考えております。



#### ロボコム・アンド・エフエイコム株式会社 南相馬市に進出予定/本社(東京都港区)

新工場が必要となる、ロボットシステム部品のアルマイト加工やメッキ等の表面処理、制御盤加工及び組立、定盤等の平面研削、システムの設計におけるソフトウェア製作などをお願いできる企業様を探しております。また、導入する3Dプリンターを活用した金属・プラスチック製品の試作なども承っております。



## 株式会社 テラ・ラボ

本社/愛知県春日井市 県内拠点 福島ロボットテストフィールド

長距離無人航空機による社会実装に向けた取り組みを実施しており、大規模災害時における情報収集システムとしての研究開発を行っています。翼長10mになる機体の開発や、本部拠点開発、中継車の開発等含め、運用までのソリューション化を目指しています。



<セラジェット>  
増粘剤噴射装置

新幹線N700系などに使用

定盤の平面研削加工例



## 事業の内容

### 事業目的・概要

①異業種間の連携、②地域間の連携、③地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指し、趣旨に賛同する幅広い分野のイノベ関係事業者等による、異業種交流のための場として「福島イノベ倶楽部」を設立します。

### 設立発起人

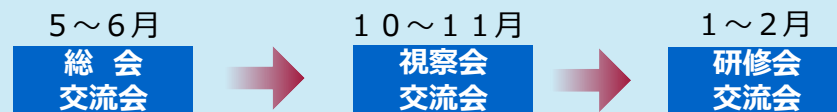
- ・福島大学 共生システム理工学類 小沢 喜仁 教授
- ・イームズロボティクス（株） 齋藤一男 取締役 浜通り開発センター長
- ・（株）菊池製作所 齋藤政宏 取締役 福島工場統括工場長
- ・（有）協栄精機 佐藤正弘 代表取締役
- ・白ハト食品工業（株） 永尾俊一 代表取締役社長
- ・（株）タジマモーターコーポレーション 田嶋伸博 代表取締役会長兼社長
- ・（株）東日本計算センター 中野修三 執行役員 R&Dセンター長
- ・フォーアールエナジー（株） 牧野英治 代表取締役社長
- ・福島エコクリート（株） 横田季彦 代表取締役社長
- ・福島舞台ファーム（株） 志子田勇司 代表取締役

### 運営方法

- 原則、会員からの会費（1事業者当たり2万円）により運営する。（交流会については、別途参加者から負担金を徴収して開催する。）
- 事業者間の交流や情報発信に特に意欲的なリーダー的事業者による「理事会」を置く。
- 事務局は、県イノベ室、イノベ機構。（県商工労働部と連携）

## 年間事業計画

### 【想定スケジュール】

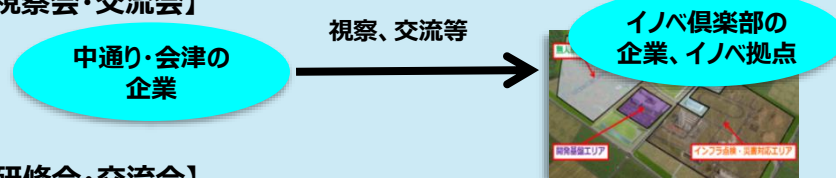


### 【総会・交流会】



交流を通じたビジネス拡大、新たなシーズの創出

### 【視察会・交流会】



### 【研修会・交流会】

大企業の経営者の経験やイノベ構想関連のテーマとした講演

### 【就職情報・企業情報発信】

イノベ機構 企業情報サイト	HamaTechChannel情報の発信
支援制度、イベント等の案内	県の合同就職説明会への参加など

### 【新たなビジネス創出に向けたワンストップ支援】

R2年度福島イノベーションプラットフォーム創出事業と連携

# 構想実現に向けた取組 ②交流人口拡大

- 交流人口拡大に向けて、企業・大学等教育機関の視察および研修の需要開拓、地域住民と来訪者との交流機会の創出のため、コンシェルジュを配置し、モデルルートの試行等を行う。
- 拠点（点）を線・面で結ぶべく、拠点間および地域内の交通手段の確保に向けて、バスやカーシェアリングの実証を行う。

## <来訪拡大に向けた視察>

### ○法人・学生向け「福島イノベーション・コースト構想」の拠点施設と地域の視察ツアー

- 第1回 11/28・29（先端農業）16名参加
- 第2回 12/3・4（リスクマネジメント）12名参加
- 第3回 12/19・20（再エネ先がけの地ふくしま）16名参加
- 第4回 1/27・28（廃炉・ロボット産業）24名参加

### ○コンシェルジュによるオーダーメイド視察（2019/4～） ・プログラムづくりや日程調整等を支援。



視察ツアーの様子  
(2019/12/19  
FGP福島天然ガス発電所)



オーダーメイド視察の案内

## <来訪時の利便性向上>

### ○カーシェアリング「はまモビ」の実証(日産)

- ・2018年12月18日より順次、浪江駅前※、富岡駅前※、小高駅前及び大熊町役場の4ステーションを設置。2019/12/16からは、稼働率の高い浪江駅前及び大熊町役場へ集約。※ワンウェイ（片道）利用も可能。



【カーシェアリング実証】浪江ステーションでのオープニング

### ○バス実証（福島交通・新常磐交通）

- ・東西アクセスの改善に向けて、3往復/日のバス運行。  
(2019年3月8日～11月22日の平日のみ)  
郡山駅～環境創造センター(三春町)～富岡駅



【バス実証】郡山駅での乗車風景

### ○「Pepper」の活用

- ・県・機構・ソフトバンクで連携協定を締結（2018年7月）し、県内に10台を設置。
- ・地域の魅力発信、プログラミングを通じた人材育成に取り組む。



### ○言語サポートサービス（2019/1/18～）

- ・携帯型翻訳機「ili（イリー）」を29ヶ所に100台配備。  
※日本語⇄英語・韓国語・中国語



# 構想実現に向けた取組 ③教育・人材育成

- 浜通り地域等には大学等の高等教育機関が少ない中、震災後、県内外の様々な大学が自治体・企業・高校などと連携して実施する大学研究活動を積極的に支援。
- 復興に資する知を浜通り地域等に誘導・集積するため、浜通り地域で市町村と協定を締結し、拠点を置きつつ教育研究活動を行う大学等を支援する取組（補助事業）を2018年度から新たに実施。2018年度は20件（1億4千万円）、2019年度は28件（3億8千万円）を採択。
- 2019年8月6日に「福島復興学ワークショップinいわき」を実施し、採択事例をPR、研究者間の交流を促進。

**東日本国際大学** × **いわき市・双葉地方8町村** **国際セミナー・シンポジウムの開催、心の復興ワークショップの開催、学生のハン**

**【日本版ハンフォードモデル構築による福島復興再生】** フォードへの派遣

東日本国際大学福島復興創生研究所をコーディネーターとし、産官学が一体となって米国ハンフォードの主な機関と緊密な関係を築き、福島浜通りがハンフォードをモデルとして、廃炉の進展、産業の振興をより一層促進させ、福島復興に寄与する。



アンズリウムの栽培

**大阪大学** × **飯館村** **環境放射線に関する研修・研究等**

**【飯館村環境放射線研修会】**

福島県飯館村において、環境放射線と関連する自然科学・人文社会学的な研修を行う。放射線に関する偏りのない幅広い科学的知識を得るとともに、その実態を正しく理解する機会を与え、社会リスク、心理等の多面的な議論を行う。研修を経た参加学生の中から将来福島県の復興に大きく関与していく人材が生まれることも期待される。

**日本大学** × **葛尾村** **ドローン活用、環境回復、地域コミュニティの再生等**

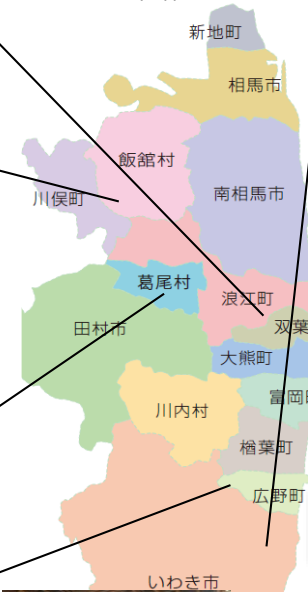
**【住民と学生の協働による「ロハスピレッジかつらお」復興まちづくり】**

大学が掲げる「ロハス工学」に基づき、住民と学生との協働による健全で持続可能なまちづくりを目指す。その内容は①交流の場と社会インフラ、②グリーンインフラ、③ドローン技術からなり、これらの技術を統合した3Dマップと教育プログラムの構築及びこれらの利活用を図る。

**早稲田大学** × **広野町** **まちづくり、風評問題、エネルギー、汚染水問題等**

**【早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター事業】**

地域社会の抱える持続性課題を研究対象として、その解決を通じて地域に貢献することを目指す。多世代かつ多様なアクターの参画による「ふくしま学（楽）会」という知識創造の場を形成し、福島復興の具体的な提案づくりから実践まで行う体制を構築する社会イノベーションの創造等に取り組む。



ふくしま学（楽）会

**東京大学** × **いわき市** **風力産業を支える人材育成・排出、地域企業の市場参入**

**【CENTER for Wind Energy Phase II】** による地域経済活性化

持続可能かつ自律的な産業基盤形成を目指し、地元高等教育機関（福島高専）や産業界と連携しながら、風力高度人材（若者）、産業基盤人材（企業）の育成に取り組み、短期・中長期を見据えた産業人材を育成する。

**<2019年度採択大学の活動地域>**

	弘前大学	東北大学	福島大学	東京大学	東京工業大学	京都大学	大阪大学	長崎大学	会津大学	郡山女子大学	東日本国際大学	慶應義塾大学	早稲田大学	日本大学	東京農業大学	近畿大学	福島工業大学
新地町				●													
相馬市																●	
南相馬市		●	●	●				●									
飯館村			●	●			●										
川俣町																●	
浪江町	●	●	●	●							●				●		
葛尾村		●	●							●	●						
田村市												●					
双葉町			●			●					●						●
大熊町			●			●					●						
富岡町			●		●		●				●						
川内村			●								●						
楡葉町			●								●						●
広野町			●								●		●				●
いわき市			●								●						●

※上記取組を含め、浜通り地域等において18大学等25プログラムを実施。

**国際教育研究拠点について**

復興庁が、令和元年7月に有識者会議を設置。11月28日に、廃炉・ロボット・エネルギー・農林水産等多様な分野を対象とした国内外の人材が集結する国際研究拠点整備・人材育成のあり方に関する中間とりまとめを行った。

- [高校]地域の企業や研究機関・大学と連携した実践的な教育プログラムを開発し、2018年度から新たに高校8校で実施。高校教育における構想を牽引するトップリーダーと構想の即戦力となる専門人材を育成。2019年度は水産高校にも拡大。
- [小中学校]構想の実現に貢献する人材育成の裾野を広げるため、小中学校段階からロボットや再エネ等の新産業を含めた地域理解を深める学習を展開。

## トップリーダーの人材育成

磐城高等学校・相馬高等学校・原町高等学校

- 福島イノベーション・コスト構想の核となるトップリーダーの育成



福島再生可能エネルギー研究所FREAと連携した施設見学（原町高校）  
2018/08/08 実施



ロボットスーツ体験

(株)菊池製作所と連携した施設見学（磐城高校）  
2018/08/08 実施

## 工業分野の人材育成

平工業高等学校・勿来工業高等学校・小高産業技術高等学校  
川俣高等学校

- ロボット産業、エネルギー産業、医療機器など専門的な工業人材の育成



ドローン操縦体験

榎葉遠隔技術開発センターと連携した施設見学（平工業高校）  
2018/06/19 実施



自動走行車の製作実習（小高産業技術高校）  
2017年度実施

## 農業分野の人材育成

磐城農業高等学校・相馬農業高等学校

- 再生可能エネルギー・バイオマスの活用や先端技術の導入など、農業イノベーション・プロジェクトを支える人材の育成



介護ロボット体験

(株)AIZUKと連携した施設見学（磐城農業高校）  
2018/06/28 実施



ドローン操縦体験

農業におけるドローン活用の取組（磐城農業高校）  
2018/6/22実施



- 福島イノベーション・コースト構想の認知度は十分でなく、構想の推進に向けて多様な主体の参画を促すためには、県内外で広く構想の取組を知ってもらうとともに、地域の方々を始め多くの方々に身近に感じてもらうことが重要。
- 機構は、企業や大学、研究機関等の構想への認知度・興味度を高め、構想への参画を促すため、戦略的かつ効果的に情報発信を行う。
- 昨年度に引き続き、福島イノベーション・コースト構想シンポジウムの開催、各イベントへの出展を行い、構想の周知、浸透を図る。

## <福島イノベーション・コースト構想シンポジウム >

第3回福島イノベーション・コースト構想シンポジウム

日時：2019年2月3日 12:00~15:00

場所：グランパルティいわき 来場者：約320名

テーマ：「エネルギー」「ロボット」ほか県内学生の取組を紹介

第4回福島イノベーション・コースト構想シンポジウム【参加 350名】

日時：2020年2月15日 13:00~16:20

場所：浮舟文化会館 テーマ：「ロボット」「農業」

○講演

株式会社SkyDrive代表取締役 福澤知浩氏、  
アイリスグループ会長 アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長 大山健太郎氏

○学生による活動報告

東京農工大学、相馬農業高等学校

○トークセッション 未来の生活を支える新技術～ロボット×農業～

セッションスピーカー	銀座農園株式会社 代表取締役社長	飯村一樹氏
	株式会社福島しろはとファーム 課長	内田政樹氏
	福島大学 農学群食農学類 准教授	窪田陽介氏
	相馬農業高等学校 校長	中野幹夫氏



福島高専による取組紹介 ロボットの操作体験コーナー（千葉工業大学のブース）

## <イベントでのブース出展（県外・ロボテスによる出展） >

- ・福島フェス2019（六本木ヒルズ）2019年11月16日
- ・東北つながる絆祭（豊洲IHビルアトリウム）2019年12月13,14日
- ・2019国際ロボット展（東京ビッグサイト）2019年12月18~21日
- ・ふくしま大交流フェスタ（東京国際フォーラム）2019年12月21日
- ・ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2019（ビッグパレットふくしま）2019年12月22,23日
- ・Japan Drone 2020（幕張メッセ）2020年3月25~27日（予定）



ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2019



東北つながる絆祭

- 地域の方々に広く構想の取組を知ってもらうとともに、身近に感じてもらうため、15市町村でのイベントにブースを出展、機構主催のセミナーを開催。

## <見える化キャラバン（県内）> ※イベントでのブース出展（2019年度）

月日	内容	場所	
7/10,11	環境放射能除染学会	郡山市	けんしん郡山文化センター
8/4	第4回福島第一廃炉国際フォーラム	富岡町	富岡町文化交流センター学びの森
8/17	2019相馬市子ども科学フェスティバル	相馬市	相馬市役所
10/5	ふたばワールド2019	檜葉町	Jヴィレッジ
10/5,6	いわきバッテリーパレーフェスタ2019	いわき市	いわきアクアマリンパーク
10/26,27	川俣ものづくり体験塾	川俣町	川俣町中央公民館
10/26,27	田村市船引地区文化祭	田村市	船引小学校体育館
10/27	いいたて秋祭り	飯舘村	飯舘村交流センターふれ愛館
11/2	ひろの秋まつり	広野町	広野町中央体育館
11/3	かつらお感謝祭	葛尾村	みどりの里広場
11/9	ならSUNフェス	檜葉町	笑みふるタウンならは
11/9,10	富岡えびず講市	富岡町	富岡第一小学校
11/23	新地町ふるさと産業まつり	新地町	新地町役場
11/24,25	復興なみえ町十日市祭	浪江町	浪江町地域スポーツセンター
11/30	ふくしま市民活動フェスティバル	福島市	MAXふくしま4階 アオウゼ
12/13,14	東北繋がる絆祭	東京都	豊洲IHIビルアトリウム
12/21	ふくしま大交流フェスタ2019	東京都	東京国際フォーラム

## <見える化セミナー> ※機構主催のセミナー

2019/12/ 3葛尾村【参加：130名】  
2019/12/19大熊町【参加：120名】



10/27 いいたて秋祭り



10/26,27 田村市船曳地区文化祭



11/9,10 富岡えびず講市



パネルディスカッション



パワードスーツ体験



- 【基本理念】
- 原子力災害と復興の記録や教訓の「**未来への継承・世界との共有**」
  - 福島にしかない原子力災害の経験や教訓を生かす「**防災・減災**」
  - 福島に心を寄せる人々や団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による「**復興の加速化への寄与**」

## ◇ 展示概要

震災前の地域の様子から震災の発生、そして復興に向けて取り組む姿などについて伝えていきます。



### 3. 原子力発電所事故直後の対応



原発事故発生直後の避難の様子、海外の反応や支援への感謝

### 4. 県民の想い



災害発生時の不安や恐れ、家族や地域との別れ、将来への不安など

### 5. 長期化する原子力災害の影響



除染、風評、長期避難、健康不安への対応

### 1. プロローグ（導入シアター）



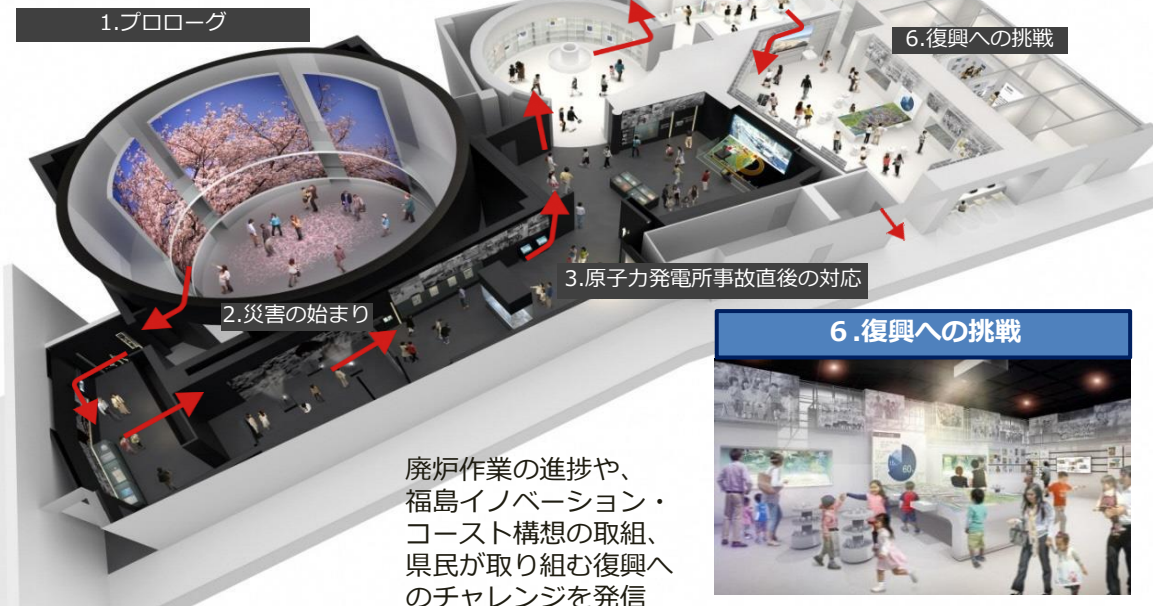
震災前の様子から、震災・原発事故の発生、避難生活を経て、復興に向けて立ち上がる姿を大画面で表現

### 2. 災害の始まり



発災当時の映像や実物資料の展示、原子力発電所の模型や解説映像等

### 1. プロローグ



### 2. 災害の始まり

### 4. 県民の想い

### 3. 原子力発電所事故直後の対応

### 6. 復興への挑戦

廃炉作業の進捗や、福島イノベーション・コースト構想の取組、県民が取り組む復興へのチャレンジを発信

### 6. 復興への挑戦

